

選 暦 お や じ の 帳  
新 人 農 業 者 手 帳

平成27年度新規就農者

遊佐 宏文



一、できない自分の存在を  
痛感

一年中農作業をやるんだと息巻いてみたものの、出荷するためにはまず野菜がしっかりと育つ必要があります。しかしこれがなかなかうまくいきません。また、毎日の収穫と袋詰め、値段貼りで余裕のない日々になってきます。この他、農作業だけではなく農園ユウサン・ファームの立ち上げに必要な新規就農者ならではの各種段取り作業をあわせて行うことになり、うまくいかないことやハブニングがしょっちゅう発生します。

いったん畑にでると目の前にはすべきことが山のようにあり、ある農作業中に必要な道具を取りに行った先で、ふとあれこれとその場で別の作業を始めてしまったり、最初の作業がはたらかしくなるなどは日常茶飯事です。自分が最初に何をやるうとしていたのかを思い出したころには妻があらかた作業を済ませてくれていたことも多々ありました。妻の協力は本当にありがたかったです。感謝・感謝の連続というのが就農二年間の率直な感想です。妻は最強の応援団です。

ある時、大失敗をしました。とれのととの担当職員からスイートコーンを出せないだろうかとの問い合わせの電話があり、その場では「まだ収穫には早いと思う」と回答したものの、ふと、折角だから出してみるかとばかりにそれまでやってきた農作業を中断して、スイートコーンの確認に行くことにしました。そこで、ひとつ試し採りをしてみたのですが、たまたまそれが先端部まで実が入っていたこともあって、なんと：一気に入数本を収穫して、さあ出荷だと意気込んだところ、妻から「まだ実が入っていないんじゃないの？？」と言われ、収穫したものをひと

つづつ、先端をゆっくり開いて確認したところ案の定、白っぽい未熟な実ばかりで、十数本を台無しにしましたので。

「なにやってんだ！俺は：！？」と言いつつそのスイートコーンで自分の頭を思いっきり叩いた反動で、破片が飛び散り、近くにいた妻の頭にも当たりました。大変お粗末な話題で恥ずかしいのですが、毎日を余裕なく過ごしていると、すっかり確認するとう基本がおろそかになるようです。実はこんな失敗が毎日複数回起こっています。思った通りできない自分に対する腹立たしさにさいなまれる日々です。



▲農業者となり初収穫したミニトマト

二、失敗が先生

努力は必ず実る。そう信じて就農一年目の七月に初収穫した赤とオレンジのミニトマトを妻と二人で喜んだのも束の間、大きな失敗が潜んでいました。八月になって、突然ミニトマトの先端枯れが発生したので。

全く元気なトマトの先端が壊死したようにしぼんでいくのです。更にはそこに灰色カビが発生しはじめました。

支援センターの白澤さんが色々調べて下さったところ、カルシウム不足が原因であることが分かりました。就農地と研修地の土壌条件などが異なる、研修で学んだことだけでは対応できないことが起こる、ということが分かりました。その後カルシウムの付与を工夫し、お陰様で就農二年目には甘くて美味しいミニトマトを出荷できるようになりましたが、この経験以降、私にとって「失敗が先生」となりました。

また、時々身近におられる諸先輩からの助言が私の失敗の原因を浮き彫りにしてくれることもあり非常に助かっています。出荷先の地物市場とれのさとでの一場面。

「スイートコーンの発芽がまばらになって出ないのも結構あるんですよ。」と、毎朝お会いする吉田京子さんに言ったところ、

「あんた、種はいつのを播いたのさ？」と聞かれたので、

「実は、去年買った残りだったんです。」

「あっ、そりゃア：駄目だわ！」と一蹴されたのもそのひとつで、長年の経験に裏付けられた農業者の常識があることを改めて痛感した次第です。

そんなこともあり現在は、何事もやってみて、知って、考えるということを中心に越したことはありません。失敗しないことに越したことはありませんが、案外うまくいっている時の方が記憶にも何も残らないような気がしがじめました。単なる負け惜しみです

(平成三十年二月十日記)